

みなとしみず

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
御前崎事務所/下田事務所/田子の浦事務所
静岡県清水区日の出町7番2号
TEL. 054-352-4146 (代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

～お知らせ～

・水中写真家 トニー・ウーが見た海の世界 写真展が開催されます。
(2017年1/12～1/24 開催 ま・あ・る4階ギャラリースペース) <http://www.sensui.or.jp/event>

共催：一般財団法人日本潜水協会 静岡市こどもクリエイティブタウンま・あ・る 協力：国土交通省 中部地方整備局 清水港湾事務所/海のみらい静岡友の会

・清水海洋展が開催されます。
(2017年2/18～2/26 開催 清水マリンビル)

年頭挨拶

明けましておめでとうございます。年初の「みなとしみず」発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年も、当事務所が実施しております県内港湾の整備・振興活動につきまして、たくさんの方々にご理解とご協力を賜り、あらためまして厚く御礼申し上げます。

2016年は、日本全体を見渡しますと災害の多い年でありましたが、幸いにも静岡では大きな被害に見舞われることもなく、清水港・御前崎港・田子の浦港・下田港の各事業を順調に進めることができました。

今年は、5月14日（日）に、関係機関のご協力を得ながら、清水港をサテライト会場とした大規模な防災訓練（メイン会場は狩野川）を実施する予定です。必ずや起こる地震津波等の大規模災害への備えには、気を引き締め、地域一体となって万全を尽くす必要がありますので、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

また、2017年は、改正個人情報保護法が全面施行されることもあって「ビックデータ元年」と言われており、ICTやAIといった技術開発の更なる進展が予見されています。物流・産業・観光など、暮らしと経済を支える主力基盤「港」もこうした革命と言うべき社会構造の大転換に即応しなければならないという思いを強くしています。

今年も、職員一同が一丸となり、港湾行政の推進に取り組んで参りますので、より一層のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

清水港湾事務所長 馬場 智



静岡県「地域防災訓練」に参加

静岡県では、12月の第1日曜日を「地域防災の日」と定め、各地域の自主防災組織が中心となり地域防災訓練を行っています。当事務所でも、12月4日（日）、宿舎の屋上を活用した駒越地区北町自治会の避難訓練に参加するとともに、独自の訓練を行いました。

自治会の訓練は、新しく設置された屋上への避難階段を使って、初めての地域防災訓練となり、約100名の方が、避難経路を確認しつつ息を切らして屋上へ避難しました。訓練後には、屋上避難階段の設置と活用について駒越地区北町自治会自主防災会会長より感謝状をいただき、あらためて津波避難ビルが地域住民の方々にと



《宿舎での訓練の様子》



《宿舎での訓練の様子》

て津波から命を守るための拠り所となっていることを認識しました。

事務所独自の訓練では、宿舎に在住する職員が中心となり、宿舎屋上から港の被災状況を双眼鏡で確認し、また、通信訓練を実施し、御前崎港及び下田港を含め被災状況報告までの流れの確認を行いました。本訓練を通じて参加職員から災害発生時の行動について、意見や提案などがあり、大きな収穫となりました。



《感謝状》

「駿河湾」 世界で最も美しい湾クラブに加盟

平成28年11月、フランスに本部を置く非政府組織「世界で最も美しい湾クラブ」は、「駿河湾」の加盟受け入れを決定しました。

同クラブは、湾の優れた自然景観を保全し、周辺地域の観光振興や経済発展との共存を図ることを活動理念としており、フランスのモン・サン・ミッシェル湾やベトナムのハロン湾など、世界25か国・41湾が加盟、日本では駿河湾のほかに、松島湾、富山湾、宮津湾・伊根湾が加盟しています。

今後、駿河湾の世界的な知名度向上や交流人口の拡大、そしてそれに伴う大型クルーズ客船の寄港誘致や港湾の利用推進などにつながることを期待しています。



《メキシコ総会にて加盟証書授与》
(写真提供：静岡県)

港に興味を持つ市民団体が清水港を見学

11月29日(火)、フェルケール博物館友の会(13名)と、由比観光ボランティアガイド連絡会(6名)の方々が、清水港を学ぶために見学に訪れました。

見学会当日は、国際拠点港湾である清水港が地域に果たしている役割や中部横断道との関わり、港湾工事などの説明を受けた後、港湾業務艇に乗船し港内の港湾施設やコンテナターミナルの整備状況、先進的な港湾景観形成の取り組みである「清水港・みなと色彩計画」について学習しました。

参加者からは、「清水港のコンテナの取り扱いの事を伺って、勉強になりました」、「コンパクトで利用しやすい機能的な港であること、また、色彩計画による港の景観への貢献が素晴らしいと思いました」などの多くの感想を聞くことができました。

普段は見るのが難しい国際コンテナターミナルの荷役作業や岸壁・防波堤等の港湾施設を見学することを通じて、自分たちの生活にとって港の果たす役割の重要性を感じていただいた貴重な機会となりました。



《概要説明の様子》



《港内見学の様子》

清水港物流視察会開催

12月13日(火)、清水港への理解を深めるための「清水港物流視察会」(主催：清水港ポートセールス実行委員会)が開催されました。

当日は、首都圏、山梨県、県東部等の49企業、関係者含め166名が参加し、清水港に関する概要説明、海上からの港視察に続き、新興津コンテナターミナル内の視察が行われました。

概要説明では、機能的で利便性の高い清水港の魅力や物流の効率化のための取組が紹介され、海上視察、ターミナル視察では、その機能や効果を間近で体験しました。参加者によるアンケートには、

「間近で本船荷役を見る機会は初めてだったので、とても参考になりました。清水出しの業務も普段行っていますが、実際に目で見ることで理解が深まりました。ヤードの待ち時間が短く、驚きました」、「清水港としての機能のほか、地域性なども知ることができ、親近感がわいた。立地も良く、今後においても期待感が持てた」などの意見が寄せられ、物流を含め清水港の多様な魅力が伝わる有意義な視察会となりました。



《新興津コンテナターミナル内の視察の様子》

無事故・無災害を目指した静岡の港づくり

11月14日(月)、清水マリビルにて、清水港湾事務所工事安全大会を開催しました。

当事務所管内の清水港、御前崎港、田子の浦港、下田港で工事を担当している建設業者及び協力会社57名が一同に会し、港湾工事における安全対策の充実、安全意識の向上、安全管理のより一層徹底を図り、無事故・無災害の現場を目指すことを目的としたものです。

静岡労働基準監督署及び清水海上保安部による講演、中部地方整備局による講話、工事受注者14社による無事故・無災害に向けた取り組みの発表や工事安全スローガンの提唱を行い、参加者全員に工事安全の重要性を再認識していただきました。

当事務所では、引き続き更なる工事現場の安全・環境改善対策強化に取り組んでいきます。



《清水港湾事務所長挨拶》

全国工場夜景サミット in 富士

12月17日(土)に富士市文化会館ロゼシアターにおいて、「第7回全国工場夜景サミット in 富士」が開催されました。「全国工場夜景サミット」は、工場夜景を新しい観光資源にしようと川崎市、室蘭市、四日市市、北九州市の4都市が始めたもので、現在では富士市、尼崎市、周南市、千葉市を含め「日本八大工場夜景都市」として工場夜景の魅力を全国に発信しているものです。

サミット会場は約300席のホールがほぼ満席状態になり、活動紹介では、各都市における工場夜景の特徴とその魅力や、夜景ナイトクルーズ、工場夜景と工場のことを学べるバスツアー、撮影スポットなどの紹介がありました。

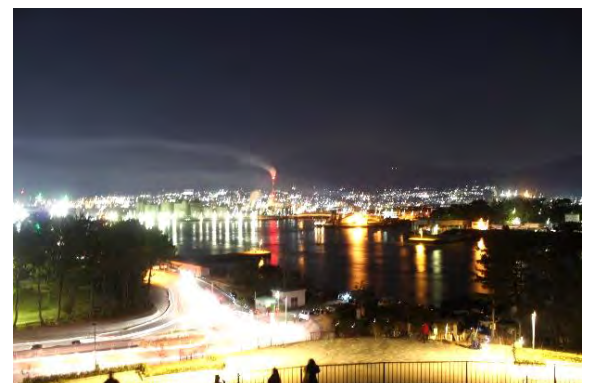
サミットでは、工場夜景のフォトコンテスト授賞式があり、応募作品1,547点の中から最優秀賞、技能賞、各都市部門の優秀作品賞が発表され、最優秀賞、技能賞のお二人が表彰されました。

富士市の工場夜景の特徴は、富士山をバックに富士市街の明かりと田子の浦港の水面に反射する工場照明がスケールの大きさを引き立てていることです。関係者から聞いた話では、美しい富士山をバックに夜景を撮るには満月の夜が良いそうです。皆さんも一度挑戦してみてもはいかがでしょうか。

また、当日の夜には、ふじのくに田子の浦みなと公園で、「スカイランタン紙ほたる（熱気球の原理で浮かぶ、水に溶ける紙製の行灯〈あんどん〉）」の打ち上げイベントが開催されました。紙ほたるの打ち上げは、開始後間もなく風が強くなり途中で中止となりましたが、いくつかの紙ほたるは、みなと公園から駿河湾の沖へ飛んでいき、多くの観客から歓声が上がっていました。



《8都市代表によるトークセッションの様子》



《ふじのくに田子の浦みなと公園からの夜景》

シリーズ「モノから見える清水港」⑤(全10回)

『清水湊旧記』

フェルケール博物館常設展示室の冒頭のガラスケース内には江戸時代の古文書がいくつか並んで紹介されています。いずれも江戸時代の清水湊を知ることができる貴重な資料ですが、昔の文字で書かれているので、なかなか一般の方に「面白い！」と感じていただけるものではありません。その中で、ぜひ注目していただきたい資料が『清水湊旧記』です。

ご存じの方もいると思いますが、江戸時代の清水湊は巴川をやや遡った右岸にありました。現在の次郎長通りは清水湊の最南端にあたり、本町や上清水が中心となっていました。『清水湊旧記』はこの頃の清水湊周辺の様子を教えてください。

「寛永八年未年、大雨大浪ニ而清水町家屋敷敷浪ニとられ申候時・・・」で始まる『清水湊旧記』は本町の廻船問屋「三保屋」の子孫の石野家に伝わりました。表紙には「石野松涛（源七）」の名が記されています。フェルケール博物館で江戸時代の湊を調べる時には必ず目を通す資料になっています。それでは、内容を見ていきましょう。

本文冒頭に「駿府前将軍 右大臣 源家康公 慶長十二丁未年 六十六歳 寅御年」とあるように徳川家康と駿府城の築城の事に加え、同じ年に、村松内の三ツ山に御船蔵を建て、関船を納め、小浜民部これを守る、と記されています。実は、昨年の6～8月に当館で開催した「御座船」展で、この部分を紹介しました。“関船”とは御座船とも呼び、将軍や大名が風流を楽しみ、参勤交代にも使用した船で、漆を塗り、飾り金具を付けた特別な船のことを指します。現在の清水小学校の南側で、当時「三ツ山」と呼ばれた場所に船蔵が建っていました。常設展示室に御座船模型を紹介していますが、家康は清水湊に「長永丸」「大広丸」の御座船を2艘係留していました。また、これに続けて、慶長14年に清水御殿を、同15年には貝島御殿を完成させています。清水御殿は、ドリムプラザから桜ヶ丘病院へ向かう左手の清水カトリック教会が跡地になります。貝島御殿跡は、三保半島の3つの爪状の先端部分の中でも真ん中の部分に所在したといい、現在は日本軽金属（株）の敷地内に含まれています。駿府城の築城が慶長12年から始まっているので、駿府の湊町の整備も同時に行っていたことがわかります。

清水の廻船問屋の発祥についても触れています。昨年の大河ドラマ『真田丸』に描かれた大坂の陣の時（慶長19年の冬の陣）、駿府城を居城としていた家康は、城主が出陣して手薄となった駿府城を攻められることに苦慮していました。それも、清水湊を襲われて巴川を遡り、駿府城の搦め手（裏）を襲撃されることを警戒したのでしょうか、清水湊に水軍を配置して廻船問屋衆に人足役を仰せつけた、と載っています。その見返りとして、大坂の陣後に清水湊の廻船問屋衆は株仲間を組織し、船による安倍川と富士川間の商いを独占したといわれています。この他にも、朝鮮通信使が江戸へ行く途中に御座船で三保周辺を遊覧したことなど、興味深い内容が満載で、『清水湊旧記』は歴史小説のように江戸時代の清水湊を描き出してくれます。ところが、和本は2ページ分しか開けませんので、展示するページを変えて皆様に見ていただいています。



※ このシリーズは「モノから見える清水港」について寄稿によるもので、今回は連載5回目です。

椿原 靖弘（ちんばらやすひろ） 1962年 藤枝市生まれ。フェルケール博物館 学芸部長

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれみなど

0120-497-370

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは
何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

堀池・西村 Tel. 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。

pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp